会長の時間　　令和５年６月１９日第２０９３回例会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　会長　田中和俊

　イマジンロータリー！これまで高校、大学のお話でした。今日は小学生のころのこと、特に奄美大島名瀬市時代のお話をします。ちょうど４１年くらい前になります。小学５年生まで加治木町立柁城小学校に通っていた私は、県立病院の看護師長をしていた母の転勤で奄美大島の名瀬私立名瀬小学校に転校することになりました。当時はコンテナで引っ越しの荷物を運んでもらった記憶があります。それまで母が乗っていた車も、奄美大島は錆びるからと処分していきました。それまで成績はまあまあで、なぜか毎年クラス委員長か副委員長か書記をしていた私は初めての転校で、学校になじめるかどうかも不安でドキドキしながら飛行機に乗りました。鹿児島空港を飛行機が離陸し、加治木の上空を飛んでいきます。加治木の街が遠くなっていくに連れて寂しくて泣きそうでした。どのくらい飛んだのか初めて見る奄美大島が近づいてきました。海がとても綺麗で、サンゴ礁が透けて見えます。空港に降り立つとやはりあったかく感じました。空港についてバスで名瀬市内まで行きます。バスが海沿いを走っていくにつれてドキドキがワクワクに変わっていきました。住むところは、先に行っていた看護師の同僚が探してくれていたところでした。街にあるアーケードの中の呉服店さんの持ちビルでした。一階が倉庫で、２階と３階が賃貸マンションになっています。うちは３階の一番奥の部屋でした。各階３部屋でお隣は南日本銀行にお勤めのご夫婦と赤ちゃん。一番手前が県庁の方でした。始業式に行くと、すぐに友達ができて、みんなが「かずとし！」と呼んできます。呼び捨てです。加治木では「田中君」でした。そこに親しみがあることを感じました。行ってみると名瀬市は加治木町より都会でした。みんなバスで通学しているし定期券を持っています。映画館もあるし、おしゃれなお店もあり、私はすぐに名瀬市が好きになりました。６クラスというのは柁城小学校と同じでした。先生たちは地元の方と鹿児島から来ている方といました。先生の言葉が奄美の言葉なのか鹿児島弁なのかですぐわかります。奄美の言葉もすぐに慣れました。でもお年寄りが話しているのはわかりませんでした。名瀬小学校といえば、校歌が非常にテンポの良い明るい曲でびっくりしました。それまでは暗い校歌でしたので。一番なら今でも歌えます。

　加治木にいるときから釣りが好きになったいたので釣りも楽しみでした。早速近くの釣具店に行きました。でも道具や餌が違います。加治木ではゴカイを餌に、砂浜や堤防からおもりをつけたキスを狙った投げ釣りです。奄美は海底に珊瑚や岩があるので、投げ釣りではすぐに針がひっかかります。なので浮き釣りです。大きな浮きをつけて遠くに投げます。餌もエビやきびなごで、主に大きなアジの種類を狙います。透き通った海の中にはナポレオンフィッシュのような大物も優雅に泳いでいますが、絶対に釣れません。ベラの仲間や熱帯魚なども釣れました。中通し竿といって垂らして使う専用の竿もありました。糸を輪っかに通す竿ではなく、竿の中に糸通すタイプです。普通には売ってないので改造して作ります。私も釣具店で改造してもらい使っていました。

　中学校は金久中学校でした。名瀬新港の近くにあります。当時は学生服が短ランとか中ラン、ズボンはボンタンや裾を絞ったズボンをみんな履いてました。なぜか誘われて野球部に入りましたが、先輩たちは不良の集まりで、野球はうまいけど見た目はビーバップハイスクールでした。なぜか私は先輩たちにかわいがられていました。怖いような楽しいような野球部生活も１年で終わりました。２年間で母がまた転勤です。引っ越しを終え、フェリー乗り場に行くと担任の先生をはじめ数人の同級生が見送りに来てくれました。よくテレビで見る紙テープが飛び交う光景で見送ってもらいながら、今度は姶良町立重富中学校に転校したのでした。その頃は釣り熱はひと段落していて、名瀬市の本屋さんで買った「空手バカ一代」に感化されて、格闘技に目覚め一人でトレーニングしたり、２年生の年末には友人と二人で鹿児島西駅にあった極真空手の道場に通いだしていました。勉強はそこそこできてはいましたが、市内の池田ゼミナールに通う同級生とは大きく水をあけられていました。やっとのことで加治木高校に入れた私は、なんとか文武両道を中途半端にしながら県外の大学を目指してがんばることになります。